

地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ

講座概要

三味線とともに物語を語る「語り物」のことを「浄瑠璃」といいます。室町時代に生まれた浄瑠璃は、はじめは声と楽器による語りだけでしたが、江戸時代になると、人形や役者の芝居と結びついて、人形浄瑠璃や歌舞伎として大きく発展しました。聞いて見て楽しめる人形浄瑠璃や歌舞伎は、その後も多くの人々に愛され、全国各地で上演されてきました。群馬県はそのなかでも人形浄瑠璃や歌舞伎をもっとも愛し、大切に育ててきた地域といえ、県内各地にはいまでも多くの人形芝居や歌舞伎の座が現存しています。本講座では、そのような人形芝居の座のひとつ、沼須人形の人形浄瑠璃を紹介します。「沼杉人形」は一人遣いの人形で、太夫に三味線とを合わせて演じられますが、人形を付けない手で人形の着物の裾をさばき、俊敏な動きが可能なのが特徴。講座にはワークショップもありますので、ぜひご来場のうえ、人形浄瑠璃に親しんでください。

実施責任者：教育学部 音楽 准教授 菅生千穂

□講義日程

日 程		講 義 内 容	講 師
第 1 日 (土)	10 月 17 日	13:30 ～ 13:50	教育学部 名誉教授 川上 晃
		14:00 ～ 16:00	
		<p>【レクチャー：人形浄瑠璃のたのしみ】 人形浄瑠璃の成立や発展、人形浄瑠璃を構成する「語り」「三味線」と「人形」などについてわかりやすく説明します。また、群馬県の歌舞伎や人形芝居を紹介し、上演作品について解説します。</p> <p>【沼須人形の解説】 ～沼須人形について～</p> <p>【ワークショップ】 ～人形のしくみ・人形の操作～</p> <p>【人形浄瑠璃公演】 「三番叟」 「演目：壺阪靈験記 山の段(予定)」</p>	沼須人形芝居 あげぼの座 (群馬県 沼田市) 沼須人形芝居は幕末の安政年間に始まり、長く中断したこともあったが、昭和50年に保存会が結成され復活した。太夫の語りと三味線と合わせ演じられる。人形は一人遣いで、遣い手は人形衣装の背中から右手あるいは左手を差し込む背中差込式の立遣いで、のどから下方に突き出たゴボウ串を人差指と中指ではさんで操作するハサミ式の指人形である。人形を付けない手で人形の着物の裾をさばくところから「ふくさ人形」とも呼ばれ、俊敏な動きが可能なのが特徴である。人形の身体部分に胴輪という特殊な小道具を使うのも珍しい。(沼田市HPより)